

笑顔いっぱい

秋号
(第61号)

発行日/令和元年10月5日

発行・編集

福島生協病院広報委員会
広島市西区福島町1丁目24番7号
TEL082-292-3171(代)

ホームページアドレス

<http://www.hch.coop/fukushima/>

8月6日を迎えて

福島生協病院 8・6実行委員会事務局 門田 美穂

8月6日8時15分、福島生協病院をはじめ法人職員は、病院前の“福島地区原爆犠牲者慰霊の碑”に集まりその時刻を迎えます。1977年に建立された慰霊碑は、入院中の被爆者から「わたしたちは死んでも墓がない」と聞いた病院ケースワーカーと地域住民の募金活動で建立されたものです。今年は台風の接近で雨が降り、病院ロビーで開催となりました。黙祷を捧げた後、北口病院長のご挨拶を大津副院長が代読「被爆者の平均年齢は82歳となり高齢化が進んでいます。被爆者の願いは核兵器の廃絶です。福島地区は、原爆によって住民の10%が即死、75%が負傷しました。いまでも外来患者の3割が被爆者です。核兵器禁止条約が採択され2年が経過、7か国が調印し24か国が批准していますが、唯一の被爆国である日本は調印も批准もしていません。核兵器や戦争では何も解決しません。被爆地広島からいっそう核兵器廃絶と憲法9条を守れという世論と運動を高めていきましょう(抜粋)」と、呼びかけられました。

午後の学習会は、放射能物理学と放射線量評価をご専門とされる広島大学名誉教授の星正治先生をお招きして「核実験 放射能の調査とその影響」をテーマに講演。専門的で難しいテーマでしたが、参加した方から「核の影響について考えたことがなかったので勉強になった」「わからなかったことが研究によって解明され医学や技術が発展する。未来に期待したい」と感想がありました。事実を歪曲して政策に沿う科学者に対して「御用学者と呼ばれることを恥ずかしいと思わないのだろうか」と言われた言葉に、研究に誠実に向き合う科学者の姿勢を感じました。そして、被爆者のくらしやいのちを支えている多方面の存在を知りました。核実験の土壌から放射能汚染を調査した報告について「福島原発事故で、直後は放射能拡散地域が円だったが、日を追うごとに汚染地域が歪んで広がっていったのは、そういった調査の影響もあるのか」という質問がありました。



肝臓栄養講演会 報告

福島生協病院 副院長 大津 直也

8月29日（木）19時から当院で肝臓栄養講演会を開催いたしました。講師には広島大学消化器・代謝内科診療講師の平松憲（ひらまつあきら）先生をお迎えし、「肝硬変のトータルマネジメント」をテーマにご講演をいただきました。当院職員のみならず近隣の先生方にも多数ご参加いただき会場は満杯の状態で、質疑応答も多数飛び交い、大変盛大な会となりました。

肝硬変患者ではいまだに多くの症例が蛋白エネルギー低栄養状態（PEM）となっており（約30%）、特に分枝鎖アミノ酸（BCAA）の消費亢進と不足からの蛋白代謝異常がその主因となっています。PEMはサルコペニア（筋肉量が減少して筋力低下や身体機能低下をきたした状態）を招来しますが、サルコペニアをきたした肝硬変患者の予後は不良でありサルコペニアを防ぐことの重要性を話されました。

肝硬変患者におけるサルコペニアはエネルギーと蛋白摂取の不足からだけでなく、アンモニア（NH₃）の上昇（ミオスタチン上昇を介して筋肉合成を抑制する）、炎症性サイトカイン増加、インスリン抵抗性亢進、テストステロン分泌低下、高容量のループ利尿剤投与からも生じています。講演では、BCAA製剤やNH₃低下効果のあるカルニチン製剤投与によりサルコペニアが改善するデータを示されました。肝硬変患者は絶食で行う検査や治療が多いのですが、食道静脈瘤の内視鏡的治療時にBCAA製剤を積極的に内服してもらうことでサルコペニアが予防できた結果には大変興味を覚えました。

講演の後半では肝硬変患者における糖代謝異常について、持続血糖測定器（CGM）を用いたデータを示されました。肝予備能の低下に伴って平均血糖値は上昇していきませんが、食後高血糖、夜間低血糖といった血糖変動が大きいのが特徴です。夜間低血糖については肝予備能やヘモグロビンA1c（HbA1c）に関係なく多くの症例で生じており、肝硬変の比較的早い病期から眠前にBCAA製剤を服用する意義を述べられました。ただし肝硬変患者では血糖コントロール状態に比べHbA1cは低く、グリコアルブミンは高く出してしまうため注意が必要とのことでした。



数年前からの経口抗ウイルス剤の登場でC型肝炎やB型肝炎でウイルスの排除や抑制が可能となり、肝炎により急速に肝機能が低下する症例は減ってきています。その分、栄養管理を中心としたトータルマネジメントを上手に行えるかが肝硬変患者の予後に直結してきます。今回の講演は今後の診療に大変参考になる内容でした。

「気になる患者 合同カンファレンス」スタート

広島中央保健生活協同組合 地域包括ケア部長 田中 敬子

来院され、入院される患者さんの病態の背景に、経済的問題、家族関係、ヘルス・リテラシーなどSDH（健康の社会的決定要因）が潜んでいます。医療・看護現場の多忙化・煩雑化が進む中で、ともすれば見過ごし、症状が軽減すると、問題を残したままの環境に帰してしまい、また同じように悪くなって病院へという繰り返しに陥ることも少なくありません。

福島生協病院は、今年1月にHPH（ヘルスプロモーション）に加盟しました。かねてから、院内の社保平和委員会活動の一環で、気になる患者さんについて書きとめ、出し合っているという取り組みが行われていましたが、改めて、HPH委員会と一緒に「気になる患者カード」の提出を院内で進めていくことになりました。5月から8月までの間に43件の事例が寄せられました。事例内容をまとめてみると、独居・老々介護・経済的な厳しさなど、共通する課題が見えてきました。

そして7月より、「あれ?」「どうして?」と職員から寄せられたこれらの事例について、多職種で意見を出し合う「気になる患者合同カンファレンス」を開催し始めました。お互いに考え合うことを通じて、さらに、気付き・共有化し・課題解決に向けて行動する力を高めることをめざしています。

第1回目は、70歳以上で3割負担だから一定の所得があるはずなのに、医療費未納になっている医事課からの事例と、経済的な負担が生じるというご家族の意向から介護保険サービス導入を拒否されたというリハビリテーション科からの事例について意見交換しました。参加者からは、そもそも高額な保険料を納めている上に、さらに高額な自己負担を求める国の制度に問題があるのではなどの意見も出されました。

8月に開催された第2回目のカンファレンスは、診療所で支払いできないからと診療が中断となり、病院相談室に紹介があった事例でした。ここでは、診察室（ミクロ）・地域（メゾ）・社会（マクロ）のそれぞれの段階で起こっていることを整理してとらえることについて学び合いました。

9月は自宅でアルコール依存を深め、食事もとれず脳萎縮状態となって救急搬送された事例を取り上げる予定です。結果として、専門の病院に転院を進めることができましたが、このようなケースが地域には多数潜在していると思われます。職員が「気になる」感度を高めることで、閉塞的な家族関係の中で隠れていた問題が明らかとなって、患者と家族との支援を集中することにつながります。改めて私たちの役割について考え合う機会としたと思っています。



「入院セット導入」について

福島生協病院 総師長 谷 宏美

9月1日より「入院セット」を導入いたしました。

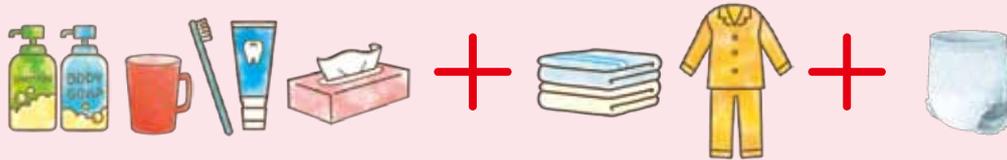
これは、患者様が入院されたときに、1日ごとの契約により衣類・タオル・おむつ・日用品が用意できるシステムです。支払いは、入院費とは別に振り込みが必要です。

これにより入院後の衣類の洗濯やおむつの購入が不要となります。もちろん、「入院セット」を依頼されなくてもこれまでと同じく売店利用はできます。

*生協さえき病院と同様に、組合員価格を設定しました。

入院生活で必要となる寝衣・タオル類、おむつ類と日用消耗品をご利用者の費用負担で日額定額制でレンタルしていただけるサービスです。

★レンタル品の洗濯は専用工場で行なわれ、清潔な商品をご提供致します。



入院患者さんの面会時間変更のお知らせ

福島生協病院 事務次長 村田 良二

9月1日（日）から入院患者さんの面会時間をご家族等の面会の実態やニーズに合わせ変更いたしました。引き続き、面会にお越しの際は、病棟スタッフにお声かけくださいますようお願いいたします。

面会時間：（新）10:00～20:00（平日・土曜・日曜・休日）

（旧）15:00～20:00（平日）、11:00～20:00（土曜・日曜・休日）

なお、午前中は患者さまに必要な処置やリハビリテーション等のため、病室内をスタッフが出入りする頻度が高い時間帯です。何卒ご了承ください。

●基本理念●

私たちは、患者さんの立場に立った医療を実践します。

基本方針

1. インフォームド・コンセント(説明と意思決定)を重視し、信頼される医療を提供します。
2. 教育・研修活動をすすめる、医療、看護、接遇の向上につとめます。
3. 地域の人々とともに、医療、福祉、介護のネットワークづくりをすすめます。

編集委員 通信



- ・ショッピングモールに並ぶ秋物を見て、暑苦しさを感じていたのに、すっかり秋の気候になりましたね。お体ご自愛ください。何かあればお早めに受診を。(U)
- ・「笑顔いっぱい」の編集に参加して、約10年。今号をもって卒業させていただくことになりました。皆様には、(時には強引な)記事の依頼に、快く応えていただきありがとうございました。この「笑顔いっぱい」が末永く続いていくことをお祈りしております。(E)
- ・編集に加わったばかりです。地域の患者さんや先生方のご様子も紹介できたらと思っています。引き続き皆様のご協力をお願いいたします。(O)
- ・心地よい季節となりました。皆さまいかがお過ごしでしょうか？息子が星を見たいと天体望遠鏡を購入。夜風に吹かれながらの観測は心地よく、息子よりも親がハマっています。(笑)(I)